第5章　総括

第１節　倉谷西中田遺跡の落とし穴の配列

倉谷西中田遺跡では、計28基の落とし穴が検出された。

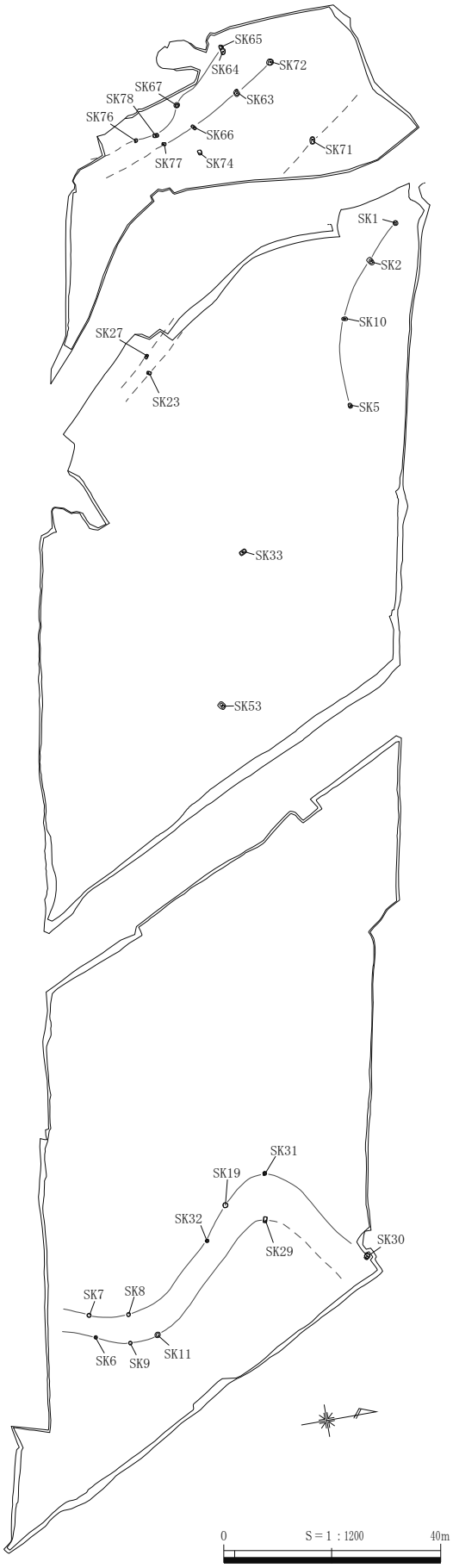
当遺跡の落とし穴の形態は、Ａ類：(円形＋底面ピットなし)、Ｂ類:(円形＋底面ピットあり)、Ｃ類:(長方形(楕円形)＋底面ピットなし)、Ｄ類:(長方形(楕円形)＋底面ピットあり)、に分けることができる。

これらの時期は、出土遺物がほとんどないため明らかにはできないが、SK10、SK71から縄文時代後晩期ごろと考えられる内外面条痕の調整が見られる粗製土器片が出土している。また、図化はできなかったが、SK64からも同様の時期と思われる土器片が出土している。

当遺跡で検出した落とし穴のすべてが縄文時代後晩期とは断定できないが、ある程度配列に規則的な様相が窺えることもあり、遺物が示す時期に収まるものと理解することができる。なお、SK64・65には重複関係が認められており、調査の所見からSK65を掘り込んでSK64が造られていることを確認しており、時間差が認められる。形態も異なっており、SK65は平面円形で底面ピットを持たないＡ類、SK65は平面長方形で底面ピットを持つＤ類となっている。形態の差は、狩猟対象の違いが反映されていることも考えられ、必ずしも時期差を示すものではないと考える。

さて、落とし穴の配列については、従来２基一対が列状に配列されることが指摘されてきている。また、その立地については丘陵平坦面から斜面にかけての傾斜変換点付近に多いことも指摘されている。倉谷西中田遺跡の場合は、現況が圃場整備の関係で当時の地形を反映していないので確実なことはいえないが、列状に並ぶ範囲が丘陵の傾斜変換点付近に当たる可能性がある。

当遺跡で検出された落とし穴のうち、４区で検



第265図　落とし穴配列図

出したものは２列に蛇行して並ぶと推定でき、しかも、SK６(A類)・７(A類)・８(A類)・９(A類)・11(A類)の５基、SK19(A類)・29(C類)・31(A類)・32(A類)の４基がそれぞれ１単位として配列された可能性がある。４区ではA類が主体となり、その他の類型がまばらに混在する様子が窺われる。

２列に配列される現象は１区の落とし穴でもみられ、SK66(D類)・67(B類)・76(A類)・77(B類)・78(B類)の５基、SK63(B類)・64(D類)(65：A類)・72(B類)の３基が１単位になる可能性がある。１区は４区とは異なり、B類が主体となりその他の類型が混在する。

３区ではSK１(B類)・２(D類)・５(D類)・10(D類)がほぼ等間隔に列状に検出されているが、１・４区のように明瞭に２列にはならない。形態もB・D類の構成となっており、いずれも底面ピットをもつものである。また、SK33(D類)・53(D類)は間隔が広いものの列状に並ぶ可能性もある。３区のものについては、丘陵を横断する配列になる可能性もあり、１区・４区と異なる配列となる。

３区から１区にかけてもSK23（D類）・27（D類）が対となりSK71（D類）方向へ列状に配列される可能性があるが、２区が未調査であるため確実なことはいえない。

今後調査が行われる２区についても、落とし穴の存在が想定され、調査を待って改めて総括したいと考える。また、落とし穴の時期決定の手法を確立することが急務であり、今回は行えなかったC14年代測定などを行って時期決定する必要があり、時期と形態的差異の関連性を今後解明しなければならない。

第２節　倉谷西中田遺跡の弥生時代集落

はじめに

今回の発掘調査によって検出した弥生時代の遺構は、時期が判明しているものは竪穴住居跡２棟、掘立柱建物跡１棟とわずかであったがいずれも弥生時代後期後葉(弥生Ｖ－３様式期)のものであった。当遺跡で出土した弥生時代の遺物は、弥生Ｖ－３様式期以外のものはないため、その他の遺構についても、時間差があることは否めないが、ほぼ弥生Ｖ－３様式期のものと考えてよいであろう。また、検出した遺構は、いずれも調査区南端付近にあり、本来集落は調査区南側に展開するものと考えられる。また、SI２は床面積40.1㎡を測る大型竪穴住居跡であることが判明した。

１　集落構成について

竪穴住居跡の平面形は、SI１は円形、SI２は八角形を呈している。SI２は大型竪穴住居跡であるため多角形を呈しているが、基本的には円形を志向するものと考える。

周辺遺跡の当該期の住居跡を見ると、谷を挟んで西側の丘陵上に展開する小竹上鷹ノ尾遺跡の竪穴住居跡は円形が３棟、隅丸方形が１棟である。さらにその西側丘陵上に展開する小竹下宮尾遺跡の竪穴住居跡は、円形が２棟である。

弥生Ｖ－３様式期においては、県内の他の地域では、竪穴住居跡の平面形は隅丸方形が主流になっていることが指摘されているが、倉谷西中田遺跡をはじめとする大山町中央海岸部(旧名和町東側)にあたる地域は、まだ調査例が少ないので確実なことはいえないが、当該期ではいまだ円形が主流となっていることが指摘できる。

ところで、大型竪穴住居であるSI２は８本柱で、さらに中央ピット周辺に４本の柱を備えている。

これらはいずれも建て替え後の構造柱であると考えられる。中央ピット周辺の柱については明確な機能を想定し難いが、主柱穴と同規模のものであることから、上屋を支える構造材または室内を区画する施設の構造材を立てた穴であったものと考える。

また、SI２の周囲では掘立柱建物跡を４棟(SB10・12・13・18)検出しており、機能的には高床倉庫であった可能性がある。同時に存在していたとは断定できないが、大型竪穴住居跡を取り囲むように掘立柱建物跡が存在していた可能性がある。それに対し、SI１は小型の竪穴住居跡で、周囲で検出したSB３・６も周壁は掘削されてた竪穴住居跡である可能性があり、SI２とは異なる建物群の配置であったものと推定される。集落の構成としては、SI２周辺は有力層の住まいと倉庫を占有する「有力層の領域」を形成しているのに対し、SI１周辺は小型の竪穴住居で構成された「一般構成員の領域」を形成していたものと考えられる。

２　弥生時代後期の竪穴住居樹種選択性について

SI１は焼失住居であったが、出土した炭化材はいずれも垂木と考えられ、樹種同定の結果、クリ、クスノキが使用されていたことが判明した。

弥生Ｖ－３様式期において、県西部で検出された焼失住居の炭化材樹種同定結果を見ると(表44)、

表44　鳥取県西部地域の竪穴住居使用木材(弥生時代後期後葉)

遺跡名	遺構名	部位	樹種	分類
倉谷西中田遺跡	SI1	垂木	クリ	落葉・高木
	SI1	垂木	クスノキ	落葉・高木
吉谷中馬場山遺跡	4区竪穴住居5b	梁桁？	スダジイ	落葉・高木
	4区竪穴住居5b	垂木・板材	スダジイ	落葉・高木
	4区竪穴住居5b	垂木・板材	クスノキ科	落葉・高木
	4区竪穴住居5b	屋根材	イネ科タケ亜科	他
	4区竪穴住居5b	垂木？	クリ	落葉・高木
	4区竪穴住居5b	柱	クリ	落葉・高木
	4区竪穴住居5b	柱	ヒノキ属	落葉・高木
古市宮ノ谷山遺跡	竪穴住居跡7	板材	スダジイ	落葉・高木
	竪穴住居跡7	丸太	スダジイ	落葉・高木
	竪穴住居跡7	壁材	ススキ	他
	竪穴住居跡7	壁材か敷物	ヒノキ・スダジイ	針葉・高木
	竪穴住居跡7	板状炭化物	ウルシ塗膜？	他
古御堂新林遺跡	竪穴住居2	丸太	クスノキ科	落葉・高木
	竪穴住居2	板状	クリ	落葉・高木
	竪穴住居2	丸太	クリ	落葉・高木
	竪穴住居2	丸太	クスノキ科	落葉・高木
	竪穴住居2	板状	スダジイ	落葉・高木
妻木晩田遺跡	MKSI43	不明	スダジイ	落葉・高木
	MKSI43	不明	クマザサ属	他
	妻木山5区SI161	丸太状垂木	ムクノキ	落葉・高木
	妻木山5区SI161	板状垂木	ケヤキ	落葉・高木
	妻木山5区SI161	板状垂木	クスノキ	落葉・高木
	妻木山5区SI161	板状垂木	クリ	落葉・高木
	妻木山5区SI161	扠首	クリ	落葉・高木
	妻木山5区SI161	母屋	クリ	落葉・高木

クリ、クスノキ、スダジイなどの高木となる樹種が多用されていることがわかる。倉谷西中田遺跡SI１で確認した竪穴住居跡の使用樹種についてもこの傾向が窺え、これらの樹種が、この時期の住居の構造材として選択的に使用されたことがわかる。

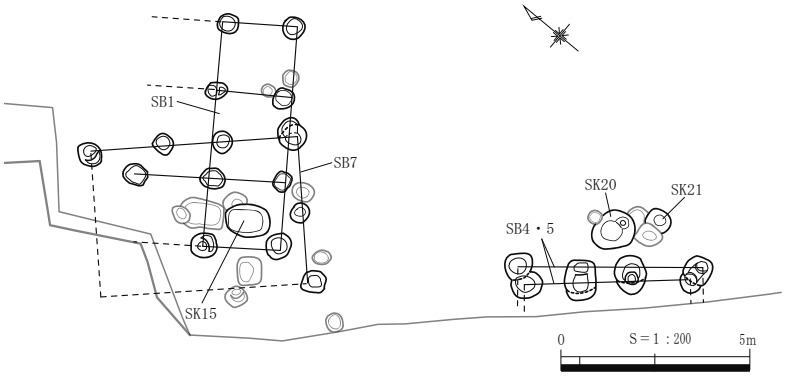
第３節　古代の倉谷西中田遺跡

１　古代の建物配置について

倉谷西中田遺跡で検出した古代（７世紀末から８世紀後半）の遺構は、掘立柱建物跡７棟（SB１・４・５・７・16・17・19）、性格不明土坑３基（SK15・20・21）、段状遺構３基（SS１～３）、土壙墓１基（SK73）、製塩土器廃棄土坑１基（SK75）、性格不明土坑１基（SK46）、ピット群１箇所（ピット群９）である。

これらは、遺跡の南西側の斜面部に集中して見られ、本来の集落は遺跡の南西側に展開するものと考えられる。

建物については、SB１が総柱建物の可能性があるが、その他のものは側柱建物で、桁行２～３間、梁行１～２間と通常の規模の建物群で構成されている。出土遺物としては、焼塩土器が特筆されるものの、一般的な須恵器類、土師器類のみで、官衙的な様相は窺われない。遺跡の性格としては、一般的な集落遺跡と理解することができる。



第 266 図　古代掘立柱建物跡周辺ピット

ところで、SB１・７周辺では今回は建物としては認識できなかったものの、多数のピットが検出されており（第266図）、今後調査を行う予定の２区の調査如何では、さらに掘立柱建物跡の柱穴として認識できるものと考えられる。

２　製塩土器について

廃棄土坑SK75から、多量の焼塩土器が出土した。図化したものは14個体であるが、総数は20個体以上と推定される。いずれも薄手で口縁部がやや内湾し、尖底となる小田Ⅳｃ類（小田1996）、鹿蔵山式（内田1994）、八峠分類逆円錐形A類（八峠2000）に相当するものである。焼塩土器は、煎熬塩運搬及び固形塩製作に用いられた土器と考えられており（森田1983）、塩消費地からの出土がほとんどである。また、ほとんどが破片として出土しており、完形で出土することは稀である。

SK75から出土した焼塩土器も破片で出土しており、また、外面は二次焼成を受けているものが大半であることから、おそらく、煎熬過程を経て得られた結晶塩を焼塩土器に入れて運搬し、消費地である倉谷西中田遺跡内で二次焼成し、焼き塩を得たものと推定される。焼塩土器が破砕状態で見つかるのは、塩を取り出す際に破砕されるためである。

倉谷西中田遺跡内からは、焼塩土器がSK75以外にもSB１、SB４・５、SB７、SS２等からも破片として出土している。そのうち、中世遺物包含層とした４区黒褐色土層からも比較的まとまった状態

で出土しているが、本来は古代の遺物としてあったものが二次堆積したものと考えられる。SK75の時期は出土した炭化材によるAMS年代測定で、1325±21 yrBP（７世紀中葉から８世紀前半）、もしくは1289±21yrBP（７世紀中葉から８世紀後半）という結果が得られており、焼塩土器の形態変遷を考える上で重要な資料である。

県内で出土した製塩土器は、大半は焼塩土器である（表45・46）。従来は、官衙関連の遺跡を中心に出土していたが、調査例の増加により一般集落からの出土例も増加してきている。

表45　鳥取県内古代遺跡出土製塩土器一覧表（因幡）

遺跡名	遺構名	形態分類	点数	種類	時期
秋里遺跡	BⅡ区SK07	椀形A類	1	焼塩土器	8c末～9c前半
岩吉遺跡	SD-03	椀形A類	19	焼塩土器	8c～9c
		椀形B類	1	焼塩土器	8c～9c
	SD-04	椀形A類	8	焼塩土器	8c～9c
		椀形B類	1	焼塩土器	8c～9c
		椀形C類	1	焼塩土器	8c～9c
	SD-05	椀形A類	1	焼塩土器	
	SD-X	椀形A類	25	焼塩土器	9c
		椀形B類	6	焼塩土器	9c
		椀形C類	1	焼塩土器	9c
	SX-01	椀形A類	123	焼塩土器	8c～9c
		椀形B類	34	焼塩土器	8c～9c
		椀形C類	4	焼塩土器	8c～9c
	遺構外	椀形A類	46	焼塩土器	8c～9c
		椀形B類	7	焼塩土器	8c～9c
		椀形C類	23	焼塩土器	8c～9c
因幡国庁跡	不明	円筒形	1	焼塩土器	不明
	EB18・19地区	椀形B	2	焼塩土器	不明
	EB65地区	椀形B	1	焼塩土器	不明
	EB68－A地区	椀形B	1	焼塩土器	不明
	EB68－C地区	椀形B	1	焼塩土器	不明
因幡国分寺	不明	円筒形	1	焼塩土器	不明
古市遺跡	SK-08	椀形A類	1	焼塩土器	8c～9c
	SK-12	椀形A類	1	焼塩土器	8c～9c
	SK-13	椀形A類	2	焼塩土器	7c～8c
	A区包含層Ⅰ	椀形A類	4	焼塩土器	不明
	A区包含層Ⅱ	椀形A・B類	6	焼塩土器	不明
	B区包含層Ⅱ	椀形A・B類	2	焼塩土器	不明
山ノ上通山遺跡	J地区SB-03	椀形A	1	焼塩土器	8c代
	J地区SB-04	椀形A	1	焼塩土器	8c代
	J地区SD-01	椀形A	1	焼塩土器	8ｃ代
	J地区遺構面	椀形A	1	焼塩土器	不明
	K地区P81	椀形B	1	焼塩土器	不明
銀山真教寺遺跡	試掘トレンチ内	椀形A類	2	焼塩土器	不明
山王尻遺跡	第１調査区	円筒形	1	焼塩土器	不明
	SK303	逆円錐形A類	1	焼塩土器	7～8ｃ
大井聖坂遺跡	遺構外	椀形A類	2	焼塩土器	不明
片山遺跡	T-2	椀形A類	1	焼塩土器	不明

表46　鳥取県内古代遺跡出土製塩土器一覧表（伯耆）

遺跡名	遺構名	形態分類	点数	種類	時期
寺戸第1遺跡	SS01P1	逆円錐形A類	4	焼塩土器	8c中～後半
	土器溜まり02	逆円錐形A類	3	焼塩土器	8c中～後半
	包含層上段テラス	逆円錐形A類	1	焼塩土器	8c中～後半
	包含層下段テラス	逆円錐形A類	2	焼塩土器	8c中～後半
長瀬高浜遺跡	整地遺構1	逆円錐形	1	焼塩土器	9c代
	古代包含層	逆円錐形？	1	焼塩土器	8ｃ～9c
	古代包含層	円筒形	1	焼塩土器	8ｃ～9c
伯耆国分寺	不明	円筒形	13	焼塩土器	奈良～平安時代
米子城跡6遺跡	遺構外	逆円錐形A類	1	焼塩土器	不明
	遺構外	円筒形	1	焼塩土器	不明
陰田小犬田遺跡	遺構外	円筒形	15	焼塩土器	不明
	遺構外	玄界灘式？	3	煎熬土器	不明
陰田広畑遺跡		円筒形		焼塩土器	不明
		玄界灘式？	1	煎熬土器	不明
福成早里遺跡	SS4	逆円錐形B類	2	焼塩土器	8c
	SS7	逆円錐形B類	2	焼塩土器	8c
	遺構外	逆円錐型B類	5	焼塩土器	不明
倉谷西中田遺跡	SB1	逆円錐形	1	焼塩土器	奈良時代
	SB4・5	逆円錐形	1	焼塩土器	7c末～8c
	SB7	逆円錐形	1	焼塩土器	8c
	SS2	逆円錐形	1	焼塩土器	8c初頭
	SK75	逆円錐形	14	焼塩土器	7c末～8c
	4区中世包含層（黒褐色土）	逆円錐形	8	焼塩土器	古代か

古代の倉谷西中田遺跡については、一般集落的な性格が考えられるのであるが、当時の塩の用途については、食用として消費された以外に、 祭祀用、工業用などの用途が推定されており、一般集落での塩の用途を考える上で、興味深い資料ではある。しかし、本遺跡の場合、塩の用途を推察するまでの資料がなく、古代の遺構の存在が推定できる２区の調査を待って、改めて考える必要があろう。

参考文献
内田律夫1994「３　鳥取県・島根県」『日本製塩土器研究』近藤義郎編　青木書店
小田和利1996「製塩土器からみた律令期集落の様相」『九州歴史資料館研究論集』21
森田勉1983「焼塩壺考」『大宰府古文化論叢』下巻
亀田妥1992「北九州市内出土の古代の製塩土器について」『研究紀要』第６号　財団法人北九州市教育文化事業団
八峠興2000「因幡･伯耆の製塩土器に関する一予察」『古文化談叢』第44集　九州古文化研究会

第４節　倉谷西中田遺跡における中世居館の様相

１　出土土器・陶磁器類について

倉谷西中田遺跡では2534点の土器・陶磁器類が出土している（第47表）。そのうち、最も出土量が多いのは在地産の土師質土器で、1877点と全体の7割を占める[1)]。次いで国産陶器類が529点と多く、貿易陶磁も128点も出土している（第267・268図）。帰属時期は14世紀代を中心とし、13世紀後半から16世紀にかけてと幅広い。ここでは土器・陶磁器類について概観し、本遺跡の性格を把握するための一助とする。

表47　倉谷西中田遺跡土器・陶磁器集計表

種別		器種	分類	遺構																																		遺構外												計
																																						3　区				4　区					1　区			
				SB2	SB8	SB14	SE1	SE2	SK38	SK16	SK17	SK18	SK54	SD１	SD15	SD18	SD21	SD8	SD9	SD10	SD17	SD19	SD24	4区ピット	3区ピット	SX3	SX４	SD2～6	SD７	SD14	SD16	SD22	SD25	SD26	SS１	灰褐色土	整地土	褐色土	他	造成土	灰褐色	黒褐色	黒色土	他	整地土	黒色土	他	
貿易陶磁	白磁	碗	Ⅳ類																																							1							1
			Ⅴ類																							1										1													2
			Ⅶ類																									1			1								1										3
			森田分類D群																																						1								1
			不明																											3						1	1	1				3		2	1			12
		皿	Ⅶ類																												1																		1
			Ⅸ類													1																							1										2
			森田分類D群																																							1			1		1	3
			森田分類E群																																	1												1
			森田分類D・E群																																						1							1
			不明												1																								1										2
		小坏	森田分類E群												1																					1			1		1								4
		合子																																							1							1
		その他	不明																																				1	1	2		1	1			1	7
	青磁	碗	同安窯系Ⅰ類													1																																1
			龍泉窯系Ⅰ類																																	1					1	1						3
			龍泉窯系B1類						1																													1	1										3
			龍泉窯系B2類																																				1			1			1			3
			龍泉窯系B3類																																	1								2				3
			龍泉窯系B4類	1																										1											1	1		2				6
			龍泉窯系C2類																																						1	1						2
			龍泉窯系D類																									3		1				1		2			1			3		2			13
			龍泉窯系E類																											1						1												2
			龍泉窯系D・E類																									3								3		1						4				11
			不明				1					1													1				1	1						2				1		3		5			1	17
		皿																																		1						2		1				4
		盤																										2														1						3
		香炉																												1						1												2
	青白磁	碗																																						1								1
		合子																																				1	1								2
		梅瓶																																								1						1
	高麗青磁	碗																																					1									1
	朝鮮陶器	皿																										1																				1
		碗																																							3		1					4
	褐釉陶器	四耳壺																																		1												1
	天目			1																											1																		2
在地土器	土師質土器	杯			1	1	2	10		2	1				22			8	1	6			1	3	31	1		1		3	2	2				30	5	21	23		4	83	28	18				310
		小皿				1	5	7	1	2					3		1	14		3	5			2	88	3		2		5	3		2			17	14	39	45		6	115	35	12				430
		杯/小皿					1								4	1														6							11	20				25	108	3				179
		鍋				1				1				1	18	1					2	1		1	6					27	2				1	39	2	131	5		33	302	241	59				874
		羽釜													1		1								1					4						1		4	1		2	6	1					22
		擂鉢													2		1																			2		1	1		1	7		2				17
		分類不明					2							1																					1		1	13				7	20					45
国産陶器	瓦質土器	羽釜															1							1	2	1		1		1	2					5		1	2		1	9	1	4				32
		鍋						1								2														1	2					8		1			3	7	13	13				51
		羽釜/鍋																																							2		29	8				39
		擂鉢																																					3	1	1	2		1	1			9
		火鉢					1		1									1								1																	1					5
		鉢															1																								1	1		1				4
		分類不明													5		1							1	1					12						15	2	10			8	1	7	13	1			77
	越前焼	擂鉢	木村Ⅱ-2期～Ⅲ-1期																						1																							1
			木村分類Ⅲ期			1																																										1
			木村分類Ⅲ2新～Ⅳ1期																																	1		1										2
			不明					2																													2	2										6
		甕	木村分類Ⅱ-2期				4																																									4
	常滑焼	擂鉢	中野編年６期																																						1							1
		甕	中野編年６～８期																																							2		4				6
			不明					1							2																							1	1			12		5	1			23
	勝間田・亀山	甕				1	5	2			1			1	2	2					1						2			5			1			13	1	25	11		5	13	3	13		1		108
	東播系	擂鉢													1															1												2						4
	備前焼	擂鉢	重根編年ⅢA期																																	1												1
			重根編年ⅢB期																																	1												1
			重根編年ⅣA期																									1		2						4		1				1						9
			重根編年ⅣB期																											3						2			1									6
			不明																		1									5						7			5		3	2		2	1		1	27
		壺	重根編年ⅣA期																																				1									1
			重根編年ⅤB期																																	1												1
			不明																											2								1		1				1				5
		壺・甕	不明											1														5		3						6	1	2	6		1	2		5	1			32
		徳利													1																					1												2
		分類不明					1																																1									2
	瀬戸・美濃焼	折縁中皿	古瀬戸中期Ⅲ新期																																			1									1
			古瀬戸中期Ⅲ・Ⅳ期				1																																									1
			古瀬戸後期Ⅲ期				1																																									1
		卸皿	古瀬戸後期Ⅲ期																																						1							1
		端反皿	大窯Ⅰ・Ⅱ期																									1																				1
		皿	不明																																									1				1
		平碗	古瀬戸後期Ⅱ期													1																										1						2
			古瀬戸後期Ⅲ期																																						1		1					2
		碗	古瀬戸後期Ⅲ期																																							1						1
			不明																									1		1						3												5
		天目茶碗	古瀬戸後期Ⅲ期																																						1							1
			大窯前半期																																					1			1					2
			大窯Ⅲ・Ⅳ期																											1																		1
		香炉	古瀬戸後期Ⅲ期																																						1							1
			古瀬戸後期Ⅳ期																																						1							1
		燭台	古瀬戸後期Ⅰ・Ⅱ期																																							1						1
		壺	古瀬戸中期前葉																												1											1						2
	滑石製石鍋	鍋	木戸分類Ⅲ-C類				1																																									1
	不明														1													1		3						5			7		8	11	1	7				44
計				0	1	5	25	23	3	5	2	1	1	3	64	9	6	23	1	9	9	1	1	7	131	8	2	22	1	93	15	2	3	1	2	179	40	279	123	6	97	633	490	193	8	1	4	2534